

C I Aフォーラム研究会報告

【品質評価】小規模な監査部門による内部監査の品質評価 品質評価マニュアルツール3「内部監査部門長質問書」回答例

No. 5-F

当研究会が活動基盤を置くC I Aフォーラムは、C I A資格保持者の研鑽及び相互交流を目的として活動する、一般社団法人日本内部監査協会の組織上の研究会のひとつである。各C I Aフォーラム研究会では、担当する座長が責任をもって自主的に運営し、研究期間、目標成果を設定し、研究成果を発信している。本研究報告書は、C I AフォーラムNo. 5-F研究会が、その活動成果としてすべてのメンバーによる自己評価結果を取りまとめたものである。したがって、本報告書に記載された意見やコメントは、研究会の見解であり、協会の見解を代表するものではないことを予めお断りしておく。

(ご注意)

「内部監査の品質評価マニュアル」はI I Aに著作権がある。
本成果物は、同マニュアルのツール3の質問項目に関する、当フォーラム研究会が作成した回答例のみを表示するものである。本成果物の利用にあたっては、「内部監査の品質評価マニュアル」を購入の上、それに含まれるツール3の質問項目を合わせて参照されたい。本成果物を一般社団法人日本内部監査協会の許諾なしに複写・配布することは禁止されている。

1. はじめに

C I Aフォーラム研究会No. 5-Fは、5人以下で構成される小規模な監査部門に所属するメンバーが、「品質評価をやってみよう！」との掛け声のもとに、2010年4月に集まったことに始まる。爾来、3年半の間に少し回り道をしながらも、以下のマイル・ストーンを経て、各メンバーが、それぞれに自部門を対象として自己評価を実施した。

本報告書は、それらの活動の中で、一般社団法人日本内部監査協会発行「内部監査の品質評価マニュアル」中「ツール3（内部監査部門長質問書）」を題材に、自己評価の一部をフォーラムで実施し、議論された結果を取りまとめたものである。したがって、その位置づけは、本来的には、内部監査部門長質問書に対する小規模内部監査部門における回答例とするところにある。しかし、また同時に、監査部門長の運営管理上の留意点として参考となるところがあれば幸甚の限りである。

2. 成果物作成の経緯

本研究会は、発足の当初、次のマイル・ストーンにより議論を進めることを申し合わせた。

- (1) 品質評価の枠組みとその基準を理解する。
- (2) 品質評価（自己評価の一部、ツール3（内部監査部門長質問書））を実施する。

まず、品質評価の枠組みとその基準を理解するために、「内部監査品質評価ガイド」に基づき品質評価の枠組みを理解し、評価基準である「内部監査の専門職の実施の国際基準」を理解することは不可欠であった。両者を読み合わせ、難解な部分をメンバーの知見により、ひとつずつ紐解いていった。これに約2年を要した。

はじめは、品質評価は外部評価と内部評価とに大別され、内部評価はさらに継続的モニタリングと定期的自己評価から構成されることを学んだ。ここで、自己評価は、外部評価に対する考え方であり、枠組みとしては内部評価の範疇に含まれる。しかし、「継続的モニタリング」は個別の監査業務を、部門の日常の管理業務に組み込んで評価するのに対して、「定期的自己評価」では組織・内部監査基本規程・監査人の専門性などの人的・組織的な側面、年間計画・進捗管理・予算管理・要員計画、個別監査の継続的モニタリング状況等、部門全般について評価する。

そこで継続的モニタリングと定期的自己評価を行う前に、部門長の視点からツール3（内部監査部門長質問書）を利用して自部門の実態を俯瞰することとした。

しかし、ツール3は、その質問内容が少し抽象的で難解なものもあり、質問の趣旨を正確に把握することから始めざるを得なかった。そして、「品質評価を行うに当たって、同じように難しいと感じる監査部長・監査人もいるかもしれない。そうであれば一つの回答例を示すことにより、的を射た品質評価につなげる事ができるのではないか。」と考えるに至った。また、自部門の実態を知ることは、自律的な品質改善の一步となることから、このような自己評価は品質改善のツールとしても位置づけることができる。

このような見地から、今回、回答例を公表することとなった。

3. 付記

本研究会の最終の目標は、自己評価を通じて小規模な監査部門固有の品質評価上の課題を洗い出し、これに対する解決策について検討するところにある。本報告書は、この点に関しては未だ道半ばにあることを記しておく。

以 上

[座 長] 内田 満之

[メンバー] 岩本 隆、岩城 賢栄、田島 和彦、徳山 成一、中島 純恵、
戸井 俊司、松本 定明、森 和敏、高井 弘幸、藪内 裕明、
村田 一、佐藤 伸吾、古木 美也子、森田 卓哉

(順不同)